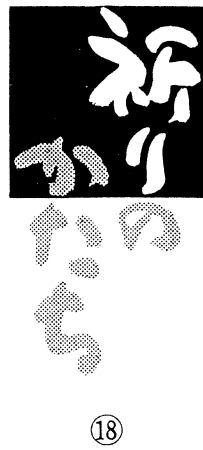


生活者が描く魂の力



18

フォークアート

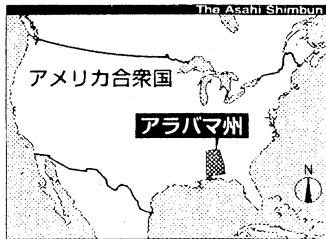


暗闇で演じられた舞踏家とフォークアーティストの掛け合い

フォークアートという響きを、この1月に初めて耳にした。アントレインド。つまり素材にペイントする。素朴な筆致からは人間の生

きるちからが伝わってきて勇気がわいてくる。それは祈りのちからといってもよい。

4月からトレイ・テイラーという米国人が我が家の2階に居候を始めた。彼とは10年ぶりの再会だ。彼は生化学者としてアマゾンの奥地に出かけ、現地のシャーマンが占いや儀式に使う植物を採取してきた。これらの植物が癌の増殖に影響を



素朴な筆致 奔放な勢い



空間をキャンバスに光の芸術を奏でるトレイ・テイラーさん。いずれも青森市千富町で

描かれている。勢いのある絵が自在に重なり、アマゾンのシャーマンやインディアンがダンスしているようで心地よい。

彼はアラバマの風景によく似たロカルの青森をこよなく愛す。版画家・棟方志功を敬愛し、彫刻家・鈴木正治を偉大なフォークアーティストだと言いつける。私の夫・福士正一をアントレインドなフォークダンサーだと言う。

ある夜、密かな実験をした。ペンライトを持ったトレイと黒装束の正一。暗闇の中で練り広げられる無言の掛け合い。

フォークアーティストと舞踏家の思いが光のエンジェルとなった。(写真と文 福士輝子)

及ぼすらしい。インディアンは闇の中で狩りができるといふ。ある植物の汁を飲めば月明かりもなしい漆黒の闇でも見えるのだ。現地に入り込み自分でも体験している彼の話は飽きない。そんな彼は2年前、故郷アラバマ州に住む著名な伝道師でフォークア

ティストであるアリー・ミラーに出会った。絵を描くように勧められ、42歳から描き始めたのだ。研究所を辞め、絵にのめり込んだ。「僕の絵は、イタコと同じくその場所にいる神からスピリットをもらっているのさ」と彼は言う。絵の中には、手を合